

知識探訪

多民族社会の横顔を読む
協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

「マレー・メール」停刊からみる2000年代以降のメディア業界史

伊賀司 (京都大学東南アジア地域研究研究所連携講師)

英語日刊紙「マレー・メール」が2018年12月1日に紙媒体としての発行を停止した。マレー・メールは過去に一時的に休刊することはあったものの122年の歴史を誇り、1970年代にシンガポールの「ストレーツ・タイムズ」から分社化した「ニュー・ストレーツ・タイムズ」を計算に入れなければ、マレーシアにおいて現存する最古の日刊紙であった。とはいえ、ネットニュースサイトとしてのマレー・メールは存続しているので、紙媒体のみが停刊したことになる。紙媒体のマレー・メール停刊の背景には、新聞やテレビなど旧来型のメディアがネットメディアの普及に伴って不振に陥っていることが指摘できる。

5月の政権交代で野党に転落した旧与党・統一マレー国民組織(UMNO)が最大の株主であるマレー語日刊紙「ウトゥサン・ムラユ」からは800人の希望退職者が去り、英語日刊紙で最大部数を誇る「スター」でも1,000人規模でスタッフの解雇や配置転換が実施された。同様に地上波民放局のすべてとニュー・ストレーツ・タイムズを発行するNSTPグループを子会社とする持株会社メディア・プリマも14年と17年の2度にわたって従業員の削減を実施している。こうした人員削減にみられる旧来型メディアの苦境は今後も続くことが予想される。

2000年代以降のマレー・メールはネットメディアからの挑戦だけでなく、ビジネスモデルの面でも明確な戦略を描き切れないうまくいかなかった。1896年に最初のタブロイド判の新聞として創刊されたマレー・メールはNSTPグループの傘下に入った後、クアラルンプール(KL)首都圏を中心とした報道に強みを持つ夕刊として発行されていた。不動産や求人などの小型の案内広告で成長した業界のパイオニアでもあった。1980年代半ばの最盛期には10万部近い発行部数があったとされる。しかし、アジア通貨危機後の経済の回復基調の中で新聞間の競争が激化し、ネットメディアの登場で新聞業界全体も地盤沈下していく中で、2000年代半ばになるとマレー・メールの部数低下と広告料収入の減少が止まらなくなっていた。打開策として一時期は英語日刊紙「ザ・サン」の経営モデルに倣って、広告収入だけに頼った無料配布のビジネスモデルを採用したこともあったがうまくいかなかった。そこで身売りされ、最終的には農業から工業化学品まで多角的な事業を展開するアンコム社が傘下のレッドベリー社を通じて09年にマレー・メールを買収するこ

とになった。

新しいオーナーの下で朝刊となったマレー・メールは新機軸を打ち出している。例えば、1999年に創刊されてネットニュースサイトとして先行していた「マレーシアキニ」と記事のコンテンツを共有する試みを行っている。13年総選挙の1カ月前にも華語紙「東方日報」、マレー語紙「シナール・ハリアン」、タミール語紙「マッカル・オサイ」という異なる言語の3紙とともにメディア同盟を結成し、取材や報道に関する協力関係構築や記事の共有などの試みも行っている。この4紙連合は、当時の与党連合・国民戦線(BN)と直接的な所有関係を持たない新聞社の連合として注目された。マレー・メールが13年にネットニュースサイトを立ち上げるときには、マレーシアキニのライバルとして当時注目されていた「ザ・マレーシアン・インサイダー」の編集長をヘッドハンティングして経営と編集の責任を担わせた。こうした新たな試みにもかかわらず、紙媒体のマレー・メールは販売価格が1リンギ(約27円)に対して、2.7リンギの発行コストがかかっており、ビジネスモデルの転換が必要だった。部数低下も止まらず、17年の段階で2万部を下回って1万8,000部程度になっていた。

18年の政権交代によってジャーナリストやメディア関係者の間には、言論、表現、取材の自由が拡大したとの実感が生まれつつある。とはいえ、全世界で起こっているように、マレーシアでも専門職が担う旧来型のジャーナリズムはネットメディアをはじめとする様々な挑戦を受けており、今後もメディア業界の再編や統廃合が続くとみられる。

< 筆者紹介 >

京都大学東南アジア地域研究研究所連携講師。専門は政治社会学、比較政治学。近著に「活性化した社会運動と市民社会の変貌 プルシ運動による街頭デモの日常化」中村正志・熊谷聡編「ポスト・マハティール時代のマレーシア：政治と経済はどう変わったか」アジア経済研究所(2018年、173-212頁)、「現代マレーシアにおける『セクシュアリティ・ポリティクス』の誕生 1980年代以降の国家とLGBT運動」『アジア・アフリカ地域研究』第17-1号(2017年、73-102頁)など。